

居場所のない 子どもたち



西三河児童・障害者相談センター
センター長 野田 正文 氏

教育随想

岡崎の教育 月報



平成15年8月1日

8月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

| | |
|---------------------------------|---|
| 教育随想 | 1 |
| 西三河児童・障害者相談センター センター長 野田 正文氏 | |
| この人に聞く | 2 |
| 子供のための地域図書館 小林 邦夫氏 | |
| 羅針盤 | 2 |
| 男川小学校長 名倉 昭人 | |
| ふれあい | 3 |
| 六ツ美中部小 近藤 秀子 葵 中 河澄 崇 | |
| 特集 | 4 |
| 自ら学ぶ教師 授業力アップを目指す自主研修 | |
| お知らせ | 6 |
| フォト・ヒストリー | 8 |
| 持ち寄った野菜で味噌汁給食 (昭和14年) | |
| この本を | 8 |

昨今、子どもたちの居場所が狭くなってきているようである。居場所とは、雨、風がしのげる場所というにとどまらず、親兄弟、師、友達と心を通わせることのできる場であって初めてそう呼ぶことができる。

多くの子どもにとって一番の居場所が家庭であることはいままでもない。そして二番には、保育所であり、幼稚園・学校であろう。

ところが、わが国の児童相談所における児童虐待の相談件数は過去十年間で二十倍に、直近の五年間だけでも六倍弱に増えている。このことは、最も安心できる場であるはずの家庭に居場所のない子どもが増えているということを意味する。一方では、長年にわたる不登校児童生徒の増加傾向もまた、一向に衰える気配

をみせない。ここでも彼らは学校に居場所を見つけれないでいる。

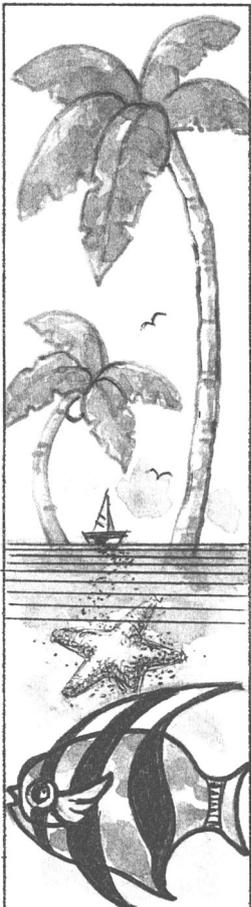
そして、警察から児童相談所に通告が来る非行の児童生徒の殆どに共通しているのは、家庭にも学校にも居場所を見出せていないことがある。

実態である。

彼らがその悪循環から抜け出せるかどうかは、家庭や学校に真の意味で居場所が見出せるかどうかにかかっているといっても過言ではない。

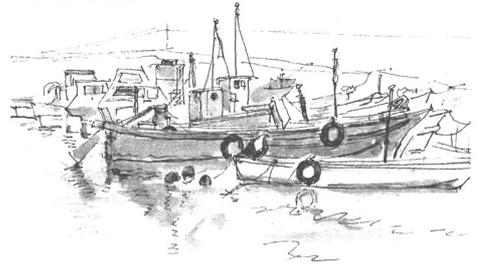
ここで私たち援助者に求められているのは、その一人の子どもにとって、悪循環の輪を解き放ち、新たに居場所を見出せるきっかけになるの何かを、どんな小さな事柄も見逃がさないぐらいの姿勢で、彼らと一緒に探して探していくことである。

(のだ まさふみ)



この人に聞く

ふるさとシリーズ



子供のための地域図書館

私設図書館「めだか文庫」主宰

小林 邦夫 氏

窓辺に「敬愛」の額がかかる部屋は決して広いとは言えない。しかし、壁一杯の本は、その数三〇〇冊。火・木・土曜日の午後が開館する。開館日には小学校低学年を中心に、学区を越えて多くの子供が集まる。

この私設図書館は、正式名称を『みんなの家・子ども図書館めだか文庫』という。

「小さい図書館だし、めだかならだれでも知っている。それに、めだかの学校みたいに、だれが生徒か先



生か分からない場所にしかかったから。」

この図書館の主宰者である小林さんは、にっこり笑った。

小林さんが、図書館を始めようと思ったのは、まだ市議会議員を務めていた平成十年ころのことだ。

「市議会議員を辞め、会社も定年退職する年になったら、地域のためになることをしたいと考えた。それには、子供たちのために何かするのとだと思っただけです。」

子供を見守り育てることが地域に貢献することになると考え、図書館の開館に動き出した。

「視察で行った子供図書館で、松

谷みよ子氏監修の『私たちの選んだ子どもの本』という本を購入しました。その中の本を片っ端から買いそろえたんです。大工さんに頼んで米つき小屋だったところを改装し、本棚は自分で組み立てました。」

できることは全部自分の手でやった。子供たちに心の財産を増やしてほしいという願いが、その根底にある。

「本との出会いは、人との出会いと同じで、人生を大きく変えることがあると思う。人にはその時その時求めている本があるのだから、この図書館でそれを探そう。」

保護司の仕事始めて二十年以上がたち、たくさんの子供たちを社会に送り出してきた。自宅近くの交差点に立って、登校する子供たちを見守る毎日、今年で十六年になる。

「どこの子でも悪いことをすればその場で叱る。子供は地域全体で育てるものでしょう。子供には愛情の投資をしなくては。」

温厚で静かな語り口の中に、強い信念を感じることができた。

氏名 小畑 邦夫 氏
生年月日 昭和十三年九月七日
住所 元能見町一〇三



親離れ、子離れ

男川小学校長

名倉 昭人

本校が六月に実施した五年生の山の学習のことである。保護者間の口こみでこの数年、キャンプファイヤーの夜、多くの親や兄弟がスタンツや火舞を見に来るようになっていた。子供たちの活動を見守ってくださるのは良いが、静かにしてほしかった時に小さい子が広場の周りを走ったり、懐中電灯を照らしたりして、五年生の子供たちの集中力も乱され、いささか苦慮していた。

そこで今年、事前の保護者への説明会で次のような話をした。「少年自然の家での二泊三日の山の学習は、小学校の宿泊を伴う行事の中で、最大の行事です。子供たちは、学校や家庭から離れて生活するための準備・計画を自分たちの力で進めていきます。子供たちを信じ、子供たちに任せて欲しいと思います。この経験

その笑顔を忘れない

六ツ美中部小 近藤 秀子

「ばかやろう。」

突然の叫び声に、私は思わずたじろいでしまった。思い通りにならなかったA男の発した言葉である。A男は、自分の世界に閉じこもりがちな子で、四・五月は、友達もなかなかできなかった。

本校の一年生は、生活科単元の「ぐんぐんそだて、おいもくん」で、六ツ美中学一年生と交流している。第一回目の交流は、中学生が担当で「出会の会」を行い、「だるまさんがころんだ」などのゲームを楽しんだ。グループ作りで声を掛けてもらったA男は、うれしそうに手をつないだり、中学生のポーズをまねしたりと大喜びであった。



六月、第二回目の交流「さつまいもの苗植え」は、小学生が担当した。学級の話し合いで、「交流会の司会に立候補したら」と、私はA男に声を掛けた。A男は不安そうな顔であった。そこで、「だいじょうぶ。先生と一緒に考えようね」と励まし、司会を務めることになった。

いよいよ、当日。学級のみんなから応援され、はきはきした声で堂々と司会をしたA男。その後も、笑顔で交流するA男。私は、そのA男の笑顔を忘れないでいようと思った。



見えない力

葵中 河澄 崇

「毎朝、北門の掃き掃除をします。」野球部のA男が真剣な目で言った。生徒総会の時、場を乱すような行動をとったので、

「学校のためになることをやれ。」とだけ言い、考えさせた。すると、A男は掃除をすると言いつ出したのだ。「できない約束をするな。」



素直に信じられず、口では冷たく言いながらも、心の中ではやっつけられることを願っていた。

「絶対にやります。」

翌朝から、七時になると北門の掃除をするA男の姿が見られるようになった。頭を丸め、登校する生徒へ照れくさそうに挨拶もしていた。

昨年までのA男に比べ、その変容ぶりには、多くの先生方、生徒たちが驚いていた。

あれから二か月がたつ。今でも朝七時になると、苦笑いで挨拶をしながら北門を掃くA男の姿がある。

「毎朝続けて、偉いな。どんな気持ちで続けているの。」

「えっ、学校を少しでもきれいにしたくて。でも今は挨拶の方が大事だと思います。卒業まで続けます。」そんなA男の姿に影響され、それぞれが何かを感じ、いつしか野球部全員が奉仕活動に取り組んでいた。

を親離れの機会であると同時に、子離れの機会にしてみてください。」

当日、何人かの親や家族が参観に来られるのではないかと思っていたが、一人の参観者もなく、近年になく子供たちが集中した、すばらしいキャンプファイヤーとなった。

さつそく、帰校後の『校長室だより』で、山の学習での様子と同時に、次のような御礼の文を載せた。「呼びかけに応えていただき、担任共々感謝しています。子供たちは、充分自然と触れ合うと同時に、お互いに協力し合って二泊三日を過ごしました。子供も保護者も一回り成長したことと思います。また、子供たちは日常生活の便利さを知ると同時に、親のありがたさ、家庭の温かさを感じる事ができたようです。」

近年、学校の説明責任という事がよく言われる。事前に目的や基本方針・方法をはっきり示しておくことがスムーズな学校運営となり、教育効果も期待できる。毎年実施しているから、昨年と同様だからではなく、改めて、目的や方法を見直すことが保護者や地域からも信頼される学校となる要因である。また、そのことが学校行事の成功となり、子供の成長にもつながることを痛感した。

自ら学ぶ教師



授業力アップを目指す自主研修

▲ 実際に教材を組み立て研究する自主研修（技術・家庭科部技術分野）



▲ テーマ別課題の自主研修（学校保健部）

「教科・領域基礎研修会」をはじめ、教師の力量向上を目指して、この夏休みも各所で研修会が開催される。こうした機会とは別に、各教科・領域において、定期的、あるいは随時、さまざまな研修が自主的に行われ、教師としての専門性を磨いている。

自主研修は、歴史の長いものになると昭和三十年代に始まり、教師の研修を支えてきた柱の一つと言っても過言ではない。岡崎教育史を見ると、一覧に挙げた自主研修以外にもその時代に応じたサークル活動があった。

これら研修会などの交流を通して、先輩から教えられることはもちろん、若い先生から学ぶこともたくさんある。一度参加してみてはいかがだろうか。



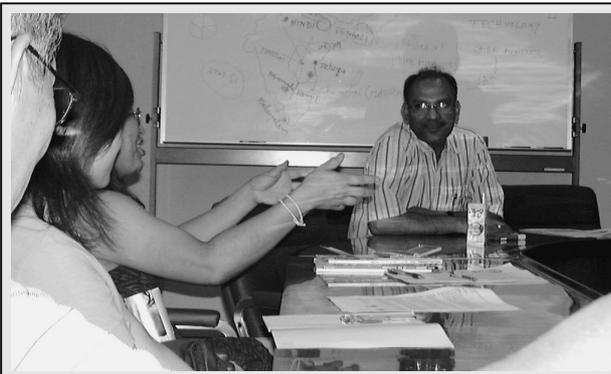
▲ コンピュータグラフィック講習（図工・美術部）



▲ 海外巡検マレーシア学校訪問（社会科部）



▲ 『読書会』でのビデオによる授業研究 (算数・数学部)



▲ 外国人との交流『ブレインストーミング』(英語部)



▲ 自然観察研修会での生物採集 (理科部)



▲ 個別の指導計画を検討 (特殊教育部)



▲ 吉行淳之介文学館での研修
『さわらびの会文学散歩』(国語部)

各教科・領域自主研修の取組一覧

| 教科・領域 | 研修内容 |
|-------|--|
| 国語 | ○大学の先生による講演や文学ゆかりの土地・施設の見学 ○優秀作文の分析 |
| 社会 | ○副読本に掲載されている現場の巡検や海外巡検 |
| 算数・数学 | ○大学の先生を講師に招いたビデオによる授業分析 |
| 理科 | ○物理・化学・生物・地学サークルによる調査活動や教材教具の開発 ○授業分析 ○国立共同研究機構の研究者によるセミナー |
| 音楽 | ○和楽器を中心とした日本音楽の研究 |
| 図工・美術 | ○コンピュータグラフィックソフトの習得 |
| 技術・家庭 | 技術分野 ○教材開発やパソコン講習 |
| | 家庭分野 ○指導法の研究や外部講師を招いての実習 |
| 英語 | ○英語のクイズ作りや外国人との交流 |
| 学校保健 | ○専門医を講師に招いた事例研究 ○テーマ別課題の自主研究 |
| 特殊教育 | ○個別指導計画の作成や事例研究、情報交換 |

お知らせ

●教育最新情報

○開かれた学校づくり

「教育の総合化」といわれる今次の教育改革も二年目を迎えた。各学校では、創意工夫を取り入れながら積極的に実践を繰り返し、成果を上げてきている。中でも「信頼される学校づくり」は、学校だけでなく、家庭や地域社会との連携が不可欠である。教室だけが学習の場であるとか、学校の教師だけが先生であるといった考えを改め、教育活動の全てにわたって地域の教育力を積極的に活用していく開かれた学校づくりへの取組が重要である。

学校参観週間はそのための一つの方策として、保護者や地域の方々各自の予定に合わせて自由に参観できるように、



に、各学校の実態に応じて、学期に一回、一週間程度を目安にして設けられている。普段の姿を見てもらう機会として、授業はもとより、子供たちの作品鑑賞や行事への参加などを通して学校への提言もあり、学校経営や教育活動に生かしている。

A校では、六月九日(月)から一週間を学校参観週間に設定し、学校保健委員会や講演会などを実施した。その結果、月曜日の四三五名を最高に各日とも保護者が来校し、総合計八一九名を数えた。そして、「家庭科(調理実習ならお母さん)、図工(大工系)」などいろいろあるといいですね」「昔を思い出しながら、パンも牛乳もおいしくなったなあと思いました。器にも絵が描いてあつ

て、アルミと違い温かな気持ちでいただけました。給食が始まると、子供たちが知らぬ間に用意をしてくれました。その気持ちが本当にうれしかったです」「あまりにも背筋の曲がった、姿勢の悪い子が多くてびびくりです。もっと授業中、背筋を伸ばすよう指導した方がよいと思います。目が悪くなる子が増えてしまうのでは……」など、多くの貴重な意見をいただくことができた。



▲子供たちの楽しみ「トトロの会」による読み聞かせ

今後、特色ある学校行事と関連させたり、年間を見通して計画的に実施したりする一方、子供たちの学び・活動の様子を積極的に発信し、互いに垣根を低くしながら学校改革に努めたい。

●ハートピア岡崎だより

ホトトギスが元気なさえずりを響かせる中、このころでは、カッコーの声も聞こえ始めた。さて、ハートピア岡崎の主な役割の一つに、通所をしたくてもできない児童・生徒に対して様々な教育相談を通して学校生活への適応性を高め、学校復帰ができるよう支援することがある。

教育相談とは、指導員との温かい人間関係の中で子供が自立していくのを援助することと考えている。

所内は昨年から引き続きの十名に加え、新たに初回面談を済ませた十二名が通所している。毎日、定時に来る者もいるし、思い出したようにやってくる者など様々であるが、一日平均十三、四名が通所している。職員は非常勤を含めて七名で、勉強や運動、作業などを通して子供たちの学校復帰を目指して指導に励んでいる。また、平成十三年度より臨床心理士が毎週金曜日の午前中に勤務することにな

り、指導員の教育相談能力を高め、通所生の学校復帰の実現に大きな力となっている。先日、前通所生の保護者から手紙が届いた。

いろいろ、お世話になりました。

四年生になってからは、生まれ変わったかのように、生き生きと毎日を過ごしています。友達ともよく遊んでいます。クラブは卓球、部活はソフト部に入りました。

ハートピアでお世話になった半年が、彼にとっては大切な時間だったと思います。先生方や、中学生の子にいつかの愛をもらったと思います。心から感謝しています。これからも、いろんなことがあると思いますが、あせらずいきいたいと思います。

(A男の保護者)

ハートピアへの通所と同時に、学校への登校刺激を与え、学校への大切であるし、右記の生徒のような変化を期待するものである。学校との連携を通して社会性を育てるといふ観点から、学校訪問(連絡会)の成果を上げるように努力したいと考えている。

●親善訪問使節団派遣

岡崎市では、中学生（姉妹都市・友好都市・生徒国際）交流事業として親善訪問使節団を派遣している。本年度は、まず、第二十二回目となるニューポルトビーチ市への親善訪問の結団式が六月十六日に行われた。

受入 7/7(月)～7/13(日)
訪問 9/30(火)～10/9(木)



〈中学生〉
美川：柵木 悠・南：面谷 幸平
竜海：樹神靖弥・葵：佐藤有香里
〈団長〉市教委：水野 昌孝
〈副団長〉矢作中：山本 知子

●表彰

◆平成十五年度緑化推進運動
功労者内閣総理大臣表彰

◆平成十五年度青少年健全育成モデル事業助成
葵 中学校

「守ろう、育てよう、葵の子どもたち」

◆第47回岡崎市中学校総合体育大会の記録

平成15年度教科・領域基礎研修会一覧

●水泳競技の記録

☆新記録

| 性 | 種目 | 氏名 | 校名 | 記録 | |
|-------------------------|------------|-------------|----------------|---------|---------|
| 男 | 100m自由形 | 関 竜 大 | 葵 | 57"6 | |
| | 100m背泳ぎ | 萩 原 達 矢 | 城北 | 1'04"6 | |
| | 100mバタフライ | 澤 田 翔 平 | 東海 | 1'03"9 | |
| | 100m平泳ぎ | 高 木 秀 明 | 竜海 | 1'14"4 | |
| | 200m自由形 | 荒 井 浩 介 | 竜海 | 2'13"1 | |
| | 200m個人メドレー | 筒 井 和 也 | 岩津 | ☆2'21"1 | |
| | 50m自由形 | 柳 雄 人 | 竜海 | 27"3 | |
| | 50m背泳ぎ | 中 嶋 一 晃 | 矢作北 | ☆ 30"9 | |
| | 50m平泳ぎ | 大 山 純 矢 | 北 | ☆ 33"9 | |
| | 50mバタフライ | 三 浦 雄 大 | 城北 | ☆ 31"3 | |
| | 子 | 400mメドレーリレー | 柳・高木 荒井・柵木 | 竜海 | 4'33"7 |
| | | 400mリレー | 柵木・柳 高木・荒井 | 竜海 | 4'06"0 |
| 男子総合 1位：竜海 2位：矢作北 3位：岩津 | | | | | |
| 女 | 100m自由形 | 岩 下 なつみ | 城北 | ☆1'02"2 | |
| | 100m背泳ぎ | 加 藤 さゆり | 城北 | ☆1'11"8 | |
| | 100mバタフライ | 新 井 紀 子 | 矢作 | 1'18"4 | |
| | 100m平泳ぎ | 湊 野 亜由美 | 北 | 1'24"8 | |
| | 200m自由形 | 高 橋 悠 実 | 福岡 | 2'34"0 | |
| | 200m個人メドレー | 藤 原 綾 子 | 矢作 | 2'40"9 | |
| | 50m自由形 | 水 上 さと子 | 附属 | 29"6 | |
| | 50m背泳ぎ | 近 藤 理 紗 | 甲山 | ☆ 33"6 | |
| | 50m平泳ぎ | 稲 垣 友扇夏 | 北 | ☆ 38"4 | |
| | 50mバタフライ | 加 藤 彩 香 | 南 | ☆ 33"0 | |
| | 子 | 400mメドレーリレー | 加藤・川澄 岩下・春山 | 城北 | ☆4'53"4 |
| | | 400mリレー | 岩下・加藤 春山・川澄 | 城北 | 4'26"3 |
| 女子総合 1位：城北 2位：竜海 3位：甲山 | | | | | |

| 教科・領域 | 期日 | 会 場 | 人数 |
|------------------|--------------|----------------------------------|----|
| 国語(書写) | 8.6 | 井田学区市民ホーム | 40 |
| 社 会 | 8.4 | 浜岡原子力発電所 浜松市の製造工場 | 50 |
| 算数・数学 | 8.5 ～6 | 愛知教育大学附属名古屋小学校 愛知教育大学附属名古屋中学校 | 60 |
| 理 科 | 8.1 | 六名小学校 | 50 |
| 生 活 | 8.7 | 南部市民センター分館 | 50 |
| 音 楽 | 8.4 | 愛知県岡崎勤労福祉会館 | 40 |
| 図工・美術 | 8.5 | おかざき世界子ども美術博物館 | 30 |
| 保健体育 | 8.5 | 根石小学校体育館 | 40 |
| 家 庭 (小 学 校) | 8.5 | 六ッ美市民センター | 20 |
| 技術・家庭 (中 学 校) | 8.6 | 六ッ美市民センター | 40 |
| 英 語 | 8.5 | 岩津市民センター | 60 |
| 特殊教育 | 8.8 | 六ッ美西部小学校 | 45 |
| 総合的な学習 | 8.5 | 南部市民センター(シビックセンター3F) | 60 |
| 特別活動 (野外活動) | 7.31 ～8.2 | 岡崎市少年自然の家 | 40 |
| 学習情報 (パソコン) | 8.5 | 六名小学校 | 40 |
| 学校図書館 | 8.5 | 矢作中学校 | 50 |
| 学校保健 | 8.7 | 中央総合公園野球場第一会議室 | 50 |



▲平成14年度教科・領域基礎研修会(音楽:和楽器を学ぶ先生方)

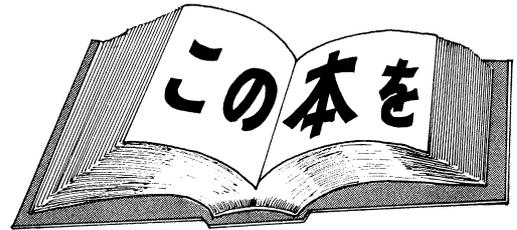
・カ
ツ
ト
南
中
加藤洋子

持ち寄った野菜で味噌汁給食

(昭和14年)

写真提供：山中小学校

学校給食は、児童の持ち寄る野菜で作った味噌汁を出すことから始まった。写真は、昭和十四年当時、山中小学校にて高等科二年女子が手伝って味噌汁を作っている様子である。その後、昭和三十三年ごろより各学校にて完全給食が行われるようになり、昭和四十六年、北部給食センターの設立を皮切りに、順次、現在のセンター方式へと移り変わってきた。平成三年度から週一回の「かみかみデー」、平成五年に「リクエスト献立」や「行事食」「郷土食」などが取り入れられ、「楽しい給食」を目指した取組がなされてきた。



- *最後の波の音 山本 夏彦 文藝春秋 ¥1600
- *不安の力 五木 寛之 集英社 ¥1300
- *奪還 引き裂かれた二十四年 蓮池 透 新潮社 ¥1300
- *学力は家庭で伸びる 陰山 英男 小学館 ¥1050

*教師 大村はま96歳の仕事 大村 はま 小学館 ¥1890

「もっと教師は本気になって教えなくてはだめです」。冒頭より、厳しい指摘が続く。プロとして、教えることに生涯にわたって心血を注ぎ、今なおその情熱は衰えることを知らない。

本書は、96歳の現在も講演活動を精力的にこなす著者の1年間の発言と講演をまとめたものである。国語教育における著者の業績は言うまでもないが、96歳の今もその提言の多くが、我々の心に強く響く。

付録に、著者の講演CDがついている。力強い著者の声に、胸が熱くなった。

表に出て喫煙。煙草を吸う者には肩身の狭い社会である。市役所は今年四月から喫煙室が設けられ、分煙化となった。現在市内小中学校で敷地内禁煙を行っている学校もある。健康教育を行う以上、教師も禁煙をすべきとの声。「百害あって一利無し」か。

しぶきを上げて元氣よくプールを泳ぎ回る子供たち。どの子も日焼けで濡れた肌が褐色に光っている。水色のプールサイド。見上げれば、灼熱の太陽と抜けるような青空。プールのフェンス越しに、その太陽に届かんばかりに伸びた向日葵が顔を出す。鮮やかな黄色が目眩しい。

シオ スア

朝顔の鉢を、両手で大事そうに持って帰った子供たち。「きょうは、じゅうにもさいたよ。みせたいよ」と報告する暑中見舞いの隅に、かわいい朝顔の花の絵を見つけた。真夏の空の下、毎日水をやっている小さな手を思う。みんな、輝く笑顔で九月に会おう。

スケジュール帳に、夏の研修日程が並ぶ。自分の力量を高める絶好の機会である。児童生徒に学ぶ喜びを実感させることが求められる今日、教師もさまざまな研修に積極的に参加し、学ぶ喜びを味わいたい。豊かな心を持つ教師の下で、豊かな心を持つ児童生徒が育つ。